

日本版ISAの道 その74

NISA元年も残り3カ月、金融機関がNISA駆け込み需要の取り込みを強化する中、NISAで何に投資する？ 9月はREITファンドとグローバル債券・株式ファンドが人気！

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

金融機関が NISA 駆け込み需要の取り込みを強化している。

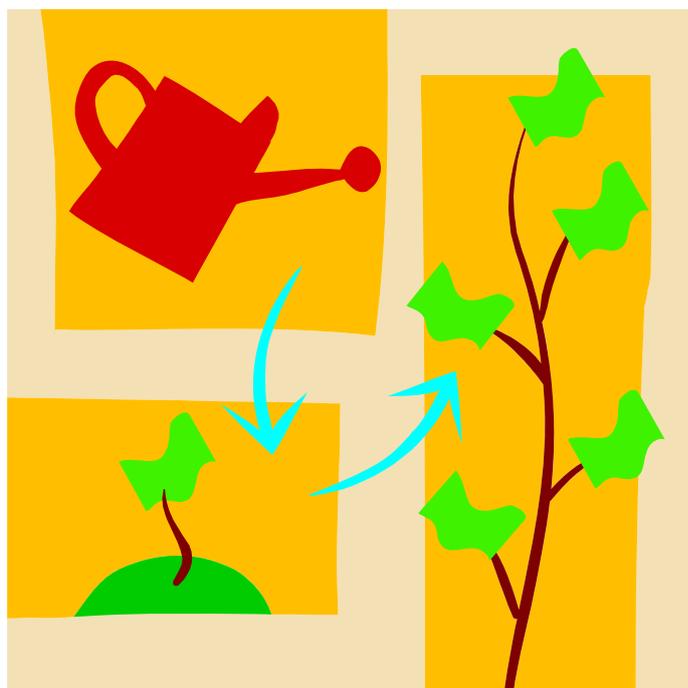
NISA(少額投資非課税制度)元年の2014年も残り3カ月となった。10月4日(土)は「投資の日」と呼ばれることもあり、年末にかけてNISAの駆け込み需要を取り込もうと金融機関等のキャンペーンが勢いを増している(投資の日…URLは後述[参考ホームページ])。10月2日付時事通信によると、「NISA口座の非課税枠(年間100万円)は翌年に繰り越せないため、今後、口座開設や投資が集中すると予想。『10月以降、2兆～2.5兆円の資金が株式投資信託に流入する』との見方も出る中、各社は投資初心者への働き掛けを強めている。日本証券業協会は、『投資の日』に当たる4日、証券知識普及のため1000人規模のセミナーを東京国際フォーラム(千代田区)で開く。…(略)…」(URLは後述[参考ホームページ])と報じている。

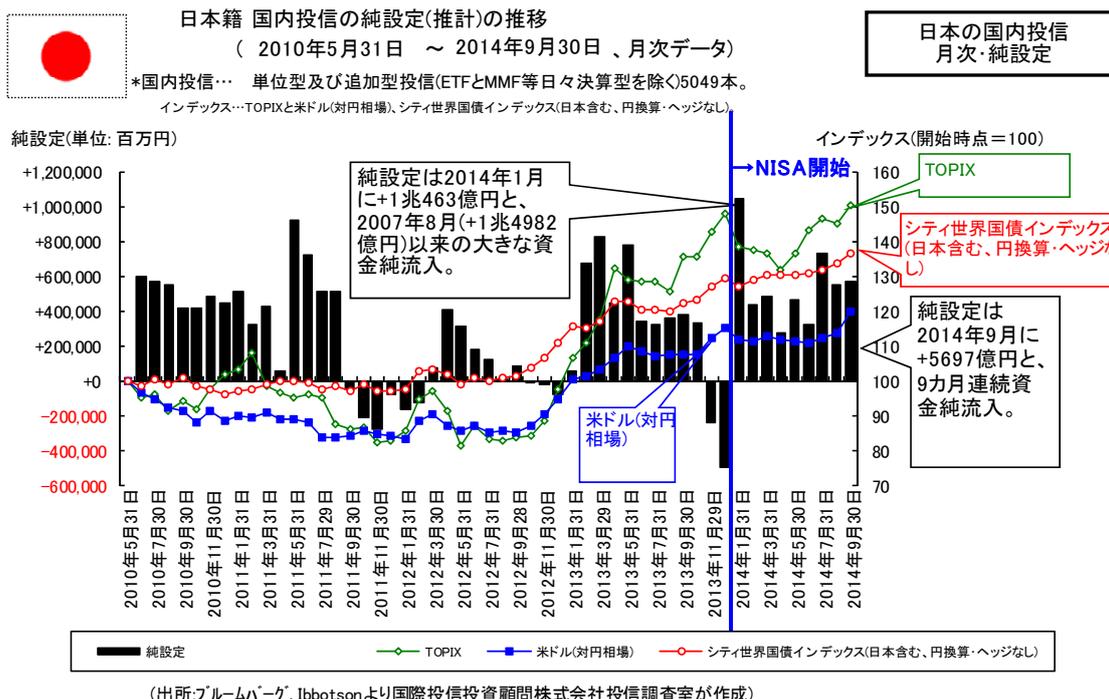
こうしたセミナーやキャンペーンでNISAや投資に関心を持った人が、NISA口座を開設したものの、実際に投資を検討する段階で、何に投資をすれば良いかわからないこともある。著名FP(ファイナンシャル・プランナー)が「実際にNISA口座を使って投資をしている人がたくさんいるかという点、まだまだです。相談に来られる方の中でもあまり多くありません。個人が投資を始めるまでに越えなきゃいけないハードルは口座の開設だけではないんですよ。入金をして、実際に買うという段階があります。口座を開いてみたものの、何を買えばいいかわからないという方も多いようです。」(2014年10月2日付日本経済新聞)と言う通りである。そこで参考になるのが、これまでNISA口座では実際、どのようなものに投資されてきたか。そこで今回は、最新9月までのNISAの投信動向を見る。

既存投資家の人気は REIT とグローバル債ファンド、グローバル株ファンド

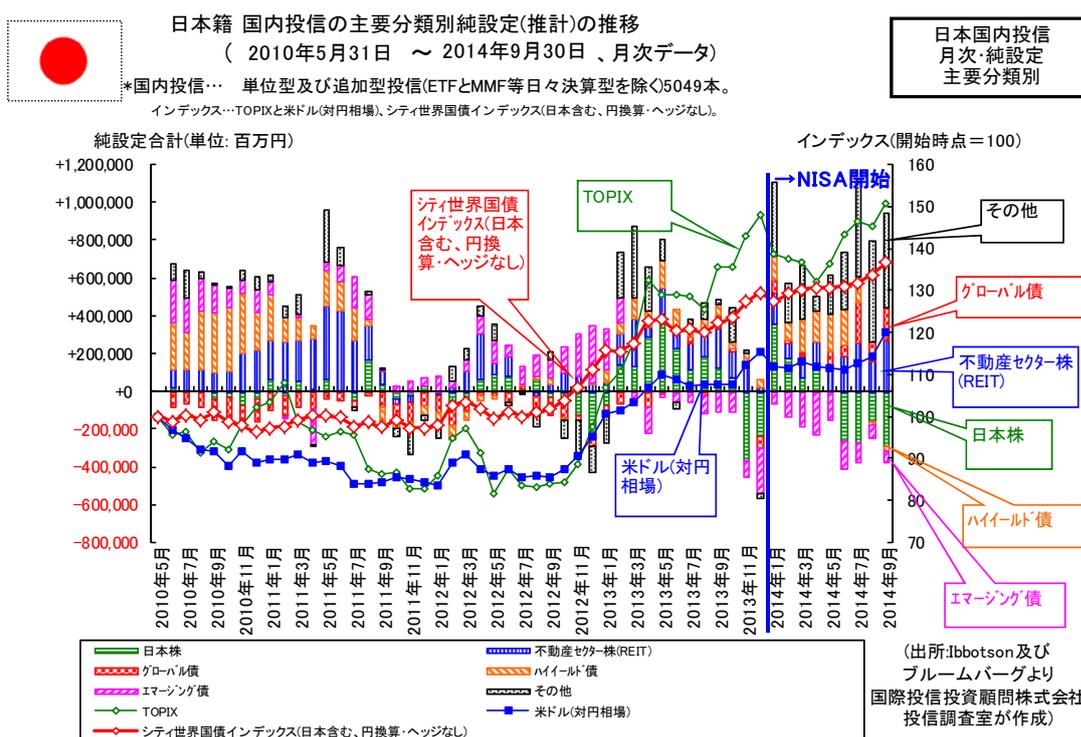
NISAのファンド動向を見るにあたって、投資家を、既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家はNISAで実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが、それを投信全体の動向で代替し、後者の新規投資家はNISA向けファンド(後述※参照)で代替する事とする。

まず前者の既存投資家であるが、投信全体の純設定推移を見ると、9月は+5697億円と、9カ月連続の資金純流入で、年初来(2014年1月～9月)では1月と7月に次ぐ3番目に大きい純流入額となった。このまま純流入額が増加すれば、冒頭の記事の「10月以降、2兆～2.5兆円の資金が株式投資信託に流入する」も充分ありえることとなる。

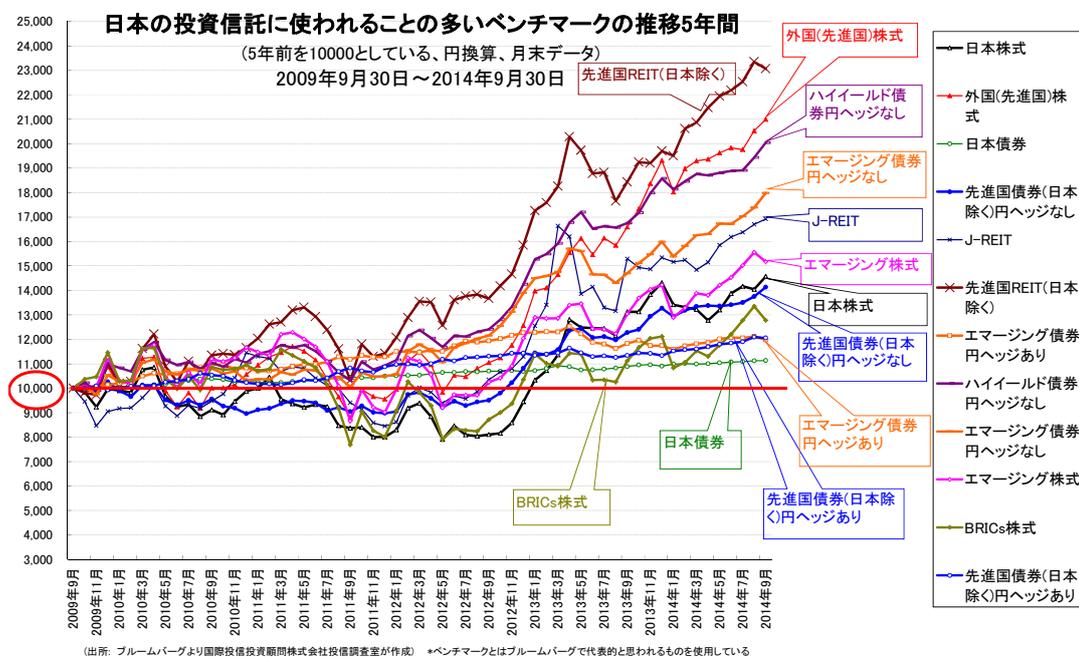




2013年末の軽減税率終了にかけ解約が膨らんだ後、2014年9月にかけて安定的な資金純流入が継続している既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。最新9月は不動産セクター(REIT)ファンドが最も大きな純流入で、グローバル債ファンドがそれに次ぎ、米国大型株ブレンド株ファンド、グローバル株ファンド、日本債ファンドなどに資金が集まっている(*グローバル株ファンド、米国大型株ブレンド株ファンド、日本債ファンドは下記グラフでは「その他」に含まれる)。一方、日本株ファンドは4カ月連続純流出、REITファンドと並びNISAで人気の続いていたハイールド債ファンドは2012年10月以来の純流出となった前月に引き続き9月も純流出。エマージング債ファンドは純流出が継続しているが、流出額はやや減ってきている様だ。



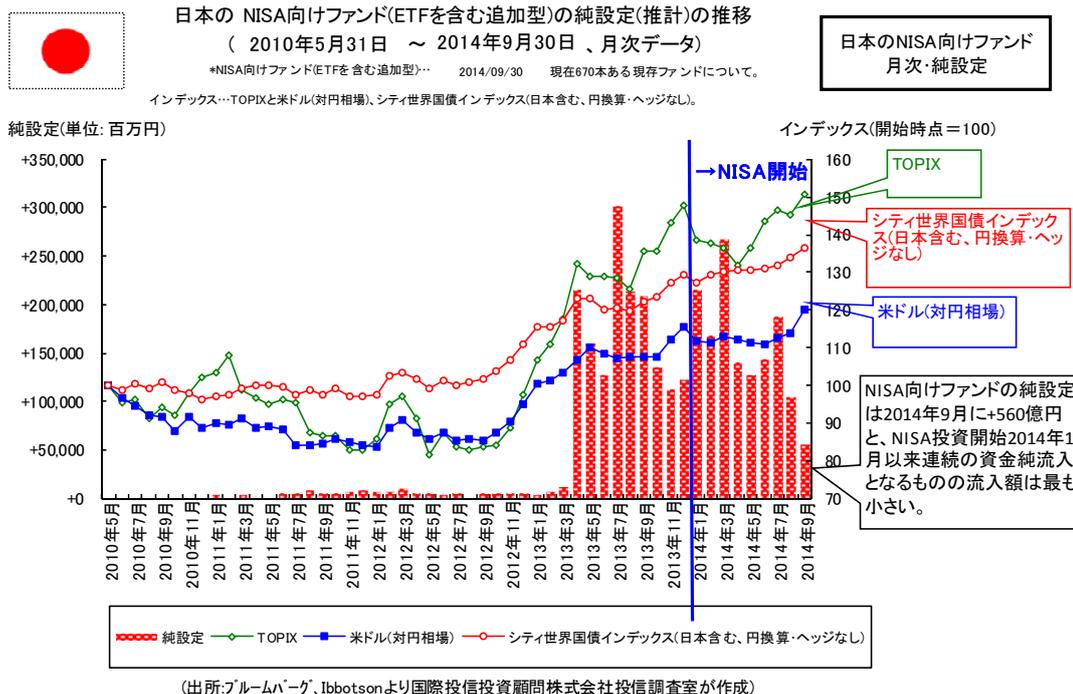
REIT ファンド、グローバル債ファンド、グローバル株ファンドに資金が集まる理由だが、パフォーマンスが好調だった事がありそうだ。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが下記グラフである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、ハイイールド債券、エマージング債券などとなっている(*5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している

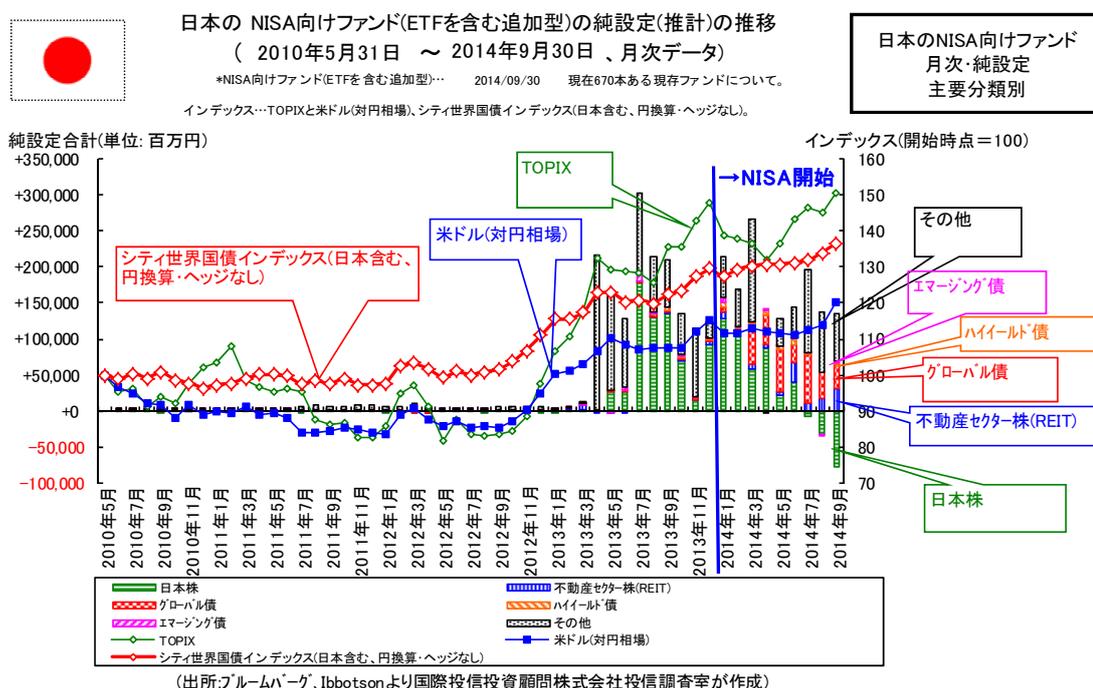
新規投資家の人気はグローバル債・REIT・アロケーション柔軟型

次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※参照)の純設定を見ると、最新 2014 年 9 月は+560 億円と前月 8 月の半分、NISA 投資開始 2014 年 1 月以降で、最も小さい資金純流入となっている。



この年初来で最も純流入が小さくなった新規投資家と思われる投信の9月の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。純流入1位はグローバル債ファンド(前月も1位)、2位は不動産セクター(REIT)(前月5位)、3位はアセットアロケーション柔軟型(*グラフでは「その他」に含まれる、前月4位)、4位は米国債ファンド(前月6位)、5位はグローバル株ファンド(前月3位)となっている。新規投資家では、現在、グローバル債ファンドやREITファンドが人気のように見える。

一方、NISA向けファンドの9月にかけての純設定の小ささは、日本株ファンドの流出によるところが大きい。日本株ファンドは、2014年1月に純設定の多くを占めていたが、9月にかけて3カ月連続の純流出となり、9月の純流出額は、前月8月の2倍超に拡大、2カ月連続の最下位となっている(7月24位←6月2位)。



※「NISA向けファンド」・・・投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2014年9月30日時点で670本となった。

ネット証券会社における実際の人気は REIT ファンド

ここで、金融機関各社が発表する実際の投資動向もあわせて見る。2014年10月3日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているところはネット証券会社が多く、下記の通りだった。各社によりランキングの集計時期や方法は異なるが、ここでは、どのような投資対象なのか傾向を見るために、各社がHPで公表する最新の内容を参考までに紹介する。個別ファンド含む詳細については後述URL[参考ホームページ]ご参照。また、1カ月前の状況については、2014年9月8日付日本版ISA その70を参照(後述URL[参考ホームページ])。

マネックス証券では9月のNISA口座における売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1~3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位グローバル株ファンド、5位日本株ファンド(前月も同じ)となっている。

最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、9月22日から26日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位アセットアロケーション積極型、5位は日本株ファンドとなっている。楽天証券も週間ランキングを発表しており、9月22日~26日のNISA投資信託・買付金額の1・2・4・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンドとなっている。

買付ランキングを一般のHPに公表している金融機関は少ないため、年初から9月末にかけての買付に値上がり・値下がりを加えたNISA口座・保有残高ランキングを発表しているネット証券会社も参考として見る。

最大手であるSBI証券のNISAランキング・投資信託では、NISA導入から約9カ月後の9月26日現在、1~4位不動産セクター(REIT)ファンド、5位日本株ファンド(前月も同じ)となっている。

楽天証券のNISAランキング・投資信託では10月1日現在、1位グローバル株ファンド、2位日本株ファンド、3位グローバル株ファンド、4位グローバル債ファンド、5位不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。前月は1~3位不動産セクター(REIT)ファンド、4位日本株ファンド、5位不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。

先述した既存投資家および新規投資家の両方で見られたように、REITファンドの人気は9月も継続。一方で、既存投資家と新規投資家の両方で日本株ファンドからの純流出が見られたが、ネット証券では反対に、日本株ファンドの人気傾向も見られる。以上、NISAにおける投資信託の最新動向だった。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたい。

[参考ホームページ]

「投資の日」…「<http://www.jsda.or.jp/manabu/104/2014/>」、2014年10月2日付け時事通信「NISAの駆け込み需要狙う=投資初心者へ攻勢強化—証券界」…「http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2014100200730」、2014年10月2日付け日本経済新聞「初めての投資、当たり前のことが衝撃(大竹のり子)」…

「http://www.nikkei.com/my/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXMZO77452770U4A920C1000000」、

2014年9月8日付日本版ISA その70「来年に持ち越せないNISAで何に投資する? NISA開始から8カ月で、人気のあるのはREITファンドやグローバルの株・債券ファンド。」…「<http://www.kokusai->

[am.co.jp/news/jisa/pdf/140908.pdf](http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140908.pdf)」、マネックス証券のNISA投資信託・販売額ランキング…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、SBI証券のNISAランキング・投資信託・保有残高

…「<https://www.sbisecc.co.jp/>」、楽天証券のNISAランキング・投資信託・残高…「<https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/>」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご注意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。